

第 22 回日本医用画像工学会大会

JAMIT Annual Meeting 2003

のお知らせ

会 期：2003 年 7 月 25 日 (金) ・ 26 日 (土)
(July 25th & 26th, 2003)

会 場：法政大学ポアソナード・タワー 26 階
(法政大学市ヶ谷キャンパス内)

大会長：安藤 裕 (慶應義塾大学医学部放射線科学教室)
(Y. Ando: Keio University)

主 催 日本医用画像工学会
(Japanese Society of Medical Imaging Technology)

後 援 (社) 日本画像医療システム工業会
(Japan Industries Association of Radiological Systems)

協 賛	医用画像情報学会	応用物理学会
(予定)	可視化情報学会	画像電子学会
	コンピュータ支援画像診断学会	電子情報通信学会
	日本医学物理学会	日本医学放射線学会
	日本エム・イー学会	日本医療情報学会
	日本画像医学会	日本核医学会
	日本コンピュータ外科学会	日本磁気共鳴医学会
	日本脳神経 CI 学会	日本超音波医学会
	三次元画像コンファレンス実行委員会	日本放射線技術学会

ご挨拶

第22回日本医用画像工学会大会は、安藤 裕慶應義塾大学助教授のお世話により、2003年7月25日～26日の2日間、法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて開催されることとなりました。多数の会員各位からの論文のご提出、大会へのご出席をお願いいたします。

この会場は、昨年の21回大会と同じ会場ですが、交通が便利で、設備がよく、眺めもすばらしいと、大変好評を頂きましたので、今年も再び法政大学のご好意により、使わせていただくこととなりました。

本学会は、医学・工学の領域にまたがる医用画像工学研究の中心的存在となるよう努力を続けております。医療現場における情報機器の普及が著しい現在、その理論的、実技的なバックボーンを支えるのに、本学会は大きな貢献ができると信じております。かねてから、医用工学関連の多くの学会の連絡を密にして有機的なつながりを実現する努力を続けてまいりましたが、「医用画像連合フォーラム」としてその第1歩を踏み出す見通しができてまいりました。皆様のご協力を得て、意義あるフォーラムを実現したいと考えております。

どうぞ、この分野に興味をお持ちの方々は、この大会に多数ご参加いただきたいと願っております。まだ会員でない方も歓迎いたしますので、この機会にご参加いただき、本学会の活動状況をご覧の上、将来のご入会をお考えいただければ幸いです。

今回は特にIT技術を踏まえた新機軸を実現する計画も進んでいますので、多数の方々のご参加を得て、本大会が優れた研究発表、活発な討論、さらに相互理解と懇親の場となりますよう、期待しております。

日本医用画像工学会
会 長 辻 内 順 平

この度、本年のJAMIT大会の大会長をお引き受けすることになりました。JAMITでは毎年いわれていることと思いますが、工学と医学とのバランスをうまく取り、工学と医学との互いの切磋琢磨が求められております。技術的な面を重要視すると医師などの臨床サイドの人は、興味がもてないかもしれませぬし、逆に臨床的な面を深く掘り下げると、工学系の人の関心が遠のくかもしれません。技術面と臨床面とは車の両輪の如く重要であると思います。今後の医用画像工学会の発展に向けて、医学サイド、工学サイド双方にとって有意義な大会とすべく努力したいと思っております。

さて、本年の第22回大会では、これまでのJAMITの伝統を引き継ぎながらも、IT化の新しい試みも加えていきたいと思っております。後でじっくり講演内容を吟味したいという人のために、講演の内容(スライド)をJAMITのホームページからインターネットを介して参照できるように検討してみたいと思っております。また、いくつかのセッションでは学会に参加できなかった人のために、学会の発表内容をストリーミング配信することが可能かどうか検討しております。世の中は、Information technology(IT)が提唱されて、かなりIT化が浸透してきたように思われます。昨年の第21回大会のように、IT化に伴い学会のスタイルも一新され、電子メールによる演題募集やプレゼンテーション・ソフトによるパソコンを用いたDesk top presentationもごく普通になってきました。

第22回大会の特別講演には、名古屋大学の鳥脇純一郎先生をお願いして、CADの現状と未来(仮題)というテーマでご講演頂くことになっております。また、生命科学の第一人者である生命誌研究館館長の中村桂子先生にゲノム情報に関する話題をお話して頂くことになっております。その他、シンポジウム、パネルディスカッション、オーガナイズドセッション、ランチョンミーティングなど盛りだくさんの企画を考えております。さらに、この分野へ若い人が多く加わり、活躍しやすいように第22回大会の参加費は、会員10,000円、学生2,000円として、学生の方々の会費を2002年と比べて安くしました。多くの学生の皆さんの参加を期待しています。2002年の大会を見て、非常にすばらしい会場に感心をしました。プログラム委員長の法政大学・尾川浩一先生のご尽力により、第22回大会も、2002年と同じく法政大学の市ヶ谷キャンパスにあるボアソナード・タワーで行うことに致しました。大会の会場としては設備も大変整っており、理想的な会場かと思っております。見晴らしがとても良いので、熱い討論の合間には外の景色を眺めて気分転換をしていただければと思います。2003年7月には、今までの大会にも増して、皆様の熱心なかつホットなご討論をお待ちしております。

第22回日本医用画像工学会大会
大会長 安藤 裕

開催の案内

1. 会 期：2003年7月25日(金)・26日(土)
2. 会 場：法政大学ポアソナード・タワー 26階(法政大学市ヶ谷キャンパス内)
東京都千代田区富士見2丁目
3. 大会長：安藤 裕(慶應義塾大学医学部放射線科学教室)
4. 大会の内容

- 1) 研究発表：口頭発表/ポスター展示発表

演題公募テーマ(医用画像工学に関するつぎの諸分野の研究)

医用画像基礎技術	画像再構成	信号検出	画像認識
画像処理	画像表示(三次元・超多画像表示)		診断論理解析
診断支援・治療支援	形態・機能診断手法	CT	MRI
ネットワーク、PACS、遠隔医療	放射光イメージング		その他

- 2) 特別講演

「CADの現状と未来(仮題)」

鳥脇 純一郎 先生(名古屋大学教授)

「ゲノム診断と画像診断(仮題)」

中村 桂子 先生(生命誌研究館館長)

- 3) シンポジウム

- 4) パネルディスカッション

- 5) オーガナイズドセッション

- 6) ランチョンミーティング

5. 大会参加登録

- 1) 登 録：当日、会場受付にて承ります。
- 2) 参加費：正会員：10,000円 学生会員：2,000円 非会員：15,000円
参加者には抄録集(CD-ROM)が配布されます
- 3) 懇親会：会員相互の親睦および情報交換の場としてご参加ください。
日時：2003年7月25日(金) プログラム終了後
会場：法政大学ポアソナード・タワー内

6. 抄録集

「抄録集」は、CD-ROM版だけの発行となります。但し、演題申込み時に提出された「アブストラクト」を事前に配布される「プログラム」に掲載いたします。

7. 演題申込み

- 1) 締 切：2003年3月7日(金) 17:00 (E-mailでのみ受付)
- 2) 申込先：office@jamit.jp (学会事務局)
- 3) 提出方法

E-mailで下記の必要事項をデータにして、添付ファイルでお送りください。

記載要項(必ず全ての項目を記載の上、ご提出ください)

- a. 発表者名(フリガナ共)/所属名/所属先住所(郵便番号)/連絡先及び住所(所属と違う場合)/連絡先電話/連絡先FAX番号/連絡先E-mail
- b. 希望発表形式(口頭またはポスター)

- c. 希望発表テーマ (公募テーマの番号とテーマ名を記載 / 複数選択可)
- d. 奨励賞受賞資格 (40 歳未満) の有無 : 有の場合は、生年月日記載)
- e. 演題名 (日本語) / 発表者名・所属名 (共同発表者含む・筆頭発表者に 印)
- f. 演題名 (英語) / 発表者名・所属名 (共同発表者含む・筆頭発表者に 印)
- g. アブストラクト (テキストのみ / 日本語 400 字または英語 200 語以内)

受領通知は、E-mail で返信いたします。

- 4) 演題の採否はプログラム委員会にご一任ください。公募演題をオーガナイズドセッションとして採用する場合がありますので、ご了解ください。
- 5) 一般演題採用者には本年 4 月初めに「演題採用通知」と「抄録集原稿作成要綱」をお送りしますので、抄録原稿を期日までに提出ください。(データによる提出)
原稿締切 : 2003 年 5 月 16 日 (金) 17:00 (厳守)
- 6) 登壇発表者は、本学会会員に限ります。非会員の方は学会当日までに会員登録をしてください。非会員は発表できません。入会申し込みは下記事務局へ

〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-19-6 ワイユウビル 3F (有)カクム内
日本医用画像工学会事務局

TEL: 03-5684-1636 FAX: 03-5684-1650 E-mail: office@jamit.jp

8. 抄録について

抄録のページ数は 10 ページ以内とします。スタイルファイルは後日、JAMIT のホームページ <http://www.jamit.jp> の大会案内の部分で提示されます。抄録は PDF ファイルで提出していただきます。ファイルサイズの最大値は 2M バイトを予定しています。詳細は大会のホームページに掲載されますのでご覧ください。

なお、次ページに示します査読付き論文制度を今回の大会で企画しています。ふるって投稿してください。投稿についての質問は haneishi@image.tp.chiba-u.ac.jp(投稿担当 : 羽石) までお寄せください。

JAMIT 大会における査読付き論文制度の導入

MIT 誌 編集委員会

この制度は JAMIT 大会における優れた研究内容を、論文として MIT 誌に掲載しやすくするために企画されたものです。この制度は迅速な査読制度によって、JAMIT 大会以後、2 ~ 4ヵ月をめどに、MIT 誌の 9 月号または 11 月号に論文を掲載するというものです。採否の確定は最も早い場合で、学会開催時になります。この制度を利用した多くの論文の投稿を希望しております。

1. 査読付き論文とは

今回の JAMIT 大会で抄録を作成する際に次のいずれかの形式のものを作成します。

A. 査読付き論文を希望するもの

B. 査読付き論文を希望しないもの

これらの A, B とともに CD-ROM 化され大会時に発表の抄録となります。ただし、A の場合は、査読のプロセスに入り、通常の査読と同じように 2 名の査読者によって厳密な査読がなされます。そして、受理された場合は、MIT 誌の 9 月号または 11 月号に掲載されます。

2. 査読付き論文の種類

種類は a. 研究速報 (刷り上がり 4 ページ以内 著者写真なし)

b. 研究 (刷り上がり 5 ページ以上)

となります。「研究速報」は 9 月号、「研究」は 9 月号または 11 月号の掲載予定。

3. 補足事項

- ・「研究速報」については、そのまま採録、些細な修正 (9 月号掲載に間に合う程度)、不採録 (大幅な修正が予想) のいずれかの判断によって採録の最終判定を行います。ここで、仮に不採録になってもデータなどを充足させ、その後、通常の論文として、MIT 誌に投稿があった場合には、通常のプロセスで迅速に査読を行う予定です。
- ・「研究」としての投稿の場合は通常のプロセスにのりませんが、JAMIT 大会に連動した論文については、査読者の協力のもとで優先して迅速な査読を行う予定です。
- ・基本的に「研究速報」の掲載時期を 9 月号、「研究速報」を発展させた「研究」の掲載時期を 11 月号に限定していますので迅速な査読が可能となり、これは、学位論文などの提出時期と一致するので有用であろうと考えております。